

文献目録 ロシア語

本稿記載の文献は、基本的に東京外国語大学附属図書館に蔵書が存在するものである。また、基本的には著者順に並べているが、辞書については発行年順に並べている。

記号 露：ロシア語で書かれた文献、英：英語で書かれた文献、日：日本語で書かれた文献、☆：重要な文献

文法書/学習書

- **Аванесов, Р.И. 1962, *Историческая грамматика и лексикология русского языка: материалы и исследования*, Изд-во Академии наук СССР, Москва**

露

古典ロシア語について、特に文法や語彙論について論じた論文を集めた論集である。古典ロシア語についてなんらかの研究をおこなおうとする場合は、一度目を通しておくとよいであろう。

- **Аванесов, Р.И., В.В. Иванов, 1982 *Историческая грамматика русского языка: морфология, глагол*, Наука, Москва**

露

ロシア語の動詞の形態の歴史についてまとめられた研究書である。この本を参照しながらテキストの読解をするような用途で用いられるものではなく、ロシア語動詞の通時的変化についてまとめられた本である。動詞の時制や命令法、体や形動詞・副動詞などの文法カテゴリーごとに章立てされている。

- **Бельчиков, Ю.А. 2012, *Практическая стилистика современного русского языка*, АСТ-ПРЕСС КНИГА, Москва**

露

文体論についての本であるが、それに付随して、形態論、統語論についても大きく言及されている。それぞれの品詞の用法や、文の組み立て方など、多くの事柄について触れており、研究の際には一度目を通しておくことを勧める。

- **Борковский, В.И. 1968, *Сравнительно-исторический синтаксис восточнославянских языков: типы простого предложения*, Наука, Москва**

露

ロシア語を含めた東スラヴ語の単文について、歴史的な変遷に基づいて論じている本である。単文を人称文、不定人称文、無人称文、否定文などと区分をつけて、歴史的な変遷や特徴について記述している。現代語ではなく、通時的な変遷をまとめたものであることに注意。

- **Борковский, В.И. 1972, Сравнительно-исторический синтаксис восточнославянских языков: бессоюзные сложные предложения, сопоставляемые со сложноподчиненными, Наука, Москва**

露

ロシア語を含めた東スラヴ語の接続詞を用いない複文を、従属文を伴う複文と対照しながら、歴史的な変遷に基づいて論じている本である。接続詞を用いない複文を、意味に基づいて区分しながらその歴史的な変遷や特徴について論じている。現代語ではなく、通時的な変遷をまとめたものであることに注意。

- **Борковский, В.И. 1973, Сравнительно-исторический синтаксис восточнославянских языков: сложноподчиненные предложения, Наука, Москва**

露

ロシア語を含めた東スラヴ語の従属文を伴う複文について、歴史的な変遷に基づいて論じている本である。従属文を伴う複文を、時間や場所、原因、手段、目的など意味によって区分をつけ、歴史的な変遷や特徴について記述している。現代語ではなく、通時的な変遷をまとめたものであることに注意。

- **Борковский, В.И. 1978, Историческая грамматика русского языка: синтаксис, простое предложение, Изд-во «Наука», Москва**

露

古代ロシア語(древнерусский язык)の統語論、特に単文における統語論について解説した本である。不定人称文、無人称文といった文の種類だけでなく、主語や述語、格の用法など文を構成する要素についても取り扱っている。現代語にも通じる要素があるので、現代ロシア語の研究の際にも参照するとよいであろう。

- **Борковский, В.И. 1979, Историческая грамматика русского языка: синтаксис, сложное предложение, Изд-во «Наука», Москва**

露

古代ロシア語(древнерусский язык)の複文における統語論について解説した本である。複文の中でも、特に従属節を伴う複文を、目的、条件、時間、原因など意味に分けて解説している。現代語にも通じる要素があるので、現代ロシア語の研究の際にも参照するとよいであろう。

- **Борковский, В.И. П.С. Кузнецов, 1963, Историческая грамматика русского языка, Академия наук СССР, Москва**

露

古代ロシア語(древнерусский язык)の音韻、形態、統語について包括的に扱った本である。基本的な音韻則、屈折、統語論だけではなく、歴史的な変遷についても取り扱う。古代ロシア語か

らの変遷に着目するなら、一読するとよいであろう。

- **Валгина, Н.С., Д.Э. Розенталь, М.И. Фомина, В.В. Цапкевич, 1964, *Современный русский язык*, Изд. 2-е, Высшая школа, Москва**

露

全1巻。音韻論から形態論、統語論までを一通り扱った本。全体的に小さくまとまっており、分量的には他の2巻本に及ばないが、正書法や、句読点の用法について節立てして説明しているので、そのような情報については引用して用いやすいと言えるだろう。

- **Виноградов, В.В. 1972, *Русский язык (грамматическое учение о слове)*, Изд. 2-е, Высшая школа, Москва (first edition appeared in 1947)**

露、☆

ロシア語文法の中でも、特に形態論を扱った本。前半部で名詞、形容詞、数詞、代名詞、副詞、名詞/形容詞述語、動詞について扱い、後半部で助詞、前置詞、接続詞を取り扱う。品詞ごとの形態や用法等については一通り網羅しており、特に形態論について取り扱うときは一読すべき文献である。

- **Виноградов, В.В. 1975, *Исследования по русской грамматике*, Наука, Москва**

露

著者の死後に編集、刊行された論集。2部構成で、前半はロシア語文法理論、後半は文法研究の歴史について取り扱っている。文法理論は、主に統語論や語形成、語の合成について取り扱っており、特にこれらの分野について研究を進めるときは参照にするとよいであろう。

- **Виноградов, В.В., Е.С. Истрина, С. Г. Бархударов, 1960, *Грамматика русского языка*, Изд. Академии Наук СССР, Москва**

露、☆

いわゆる60年文法と呼ばれる、全2巻本で、1巻目では語彙、音韻論について、2巻目では形態論、統語論について取り扱っている。特に形態論は、品詞ごとに詳細に説明がなされている。なお、東京外大図書館には1, 2巻目ともに所蔵されているが、1巻目は閉架の冠本文庫にのみ所蔵されている。

- **Галкина-Федорук, Е.М., К.В. Горшкова, Н. М. Шанский, 1957, *Современный русский язык*, Гос. учебно-педагог изд-во Министерства просвещения РСФСР, Москва**

露

全2巻本で、1巻目では語彙、音韻論について、2巻目では形態論、統語論について取り扱っている。特に形態論は、品詞ごとに詳細に説明がなされている。なお、東京外大図書館には1, 2巻目ともに所蔵されているが、1巻目は閉架の冠本文庫にのみ所蔵されている。

- Горшкова, К.В., Г.А. Хабургаев, *Историческая грамматика русского языка*, Изд-во Московского университета, Москва

露

ロシア語の文法を通時的に取り扱った本である。筆記される以前から 18 世紀までのロシア語や、東スラヴ語の音韻や形態について取り扱っている。教科書ではなく、研究書としての趣が強い。また、統語論については取り扱っていない。

- Граудина, Л.К. 1980, *Вопросы нормализации русского языка: грамматика и варианты*, Наука, Москва

露

現代ロシア語の文法の標準化について扱った本である。現代ロシア語についてだけでなく、言語一般の標準化、18 世紀、19 世紀のロシア語の標準化についても記述されている。特に大きく取り扱われているのが形態論であり、品詞ごとに項目が立てられて論じられている。

- Граудина, Л.К., В.А. Ицкович, Л. П. Катлинская, 1976, *Грамматическая правильность русской речи: опыт частотно-стилистического словаря вариантов*, Наука, Москва

露

研究書というよりは辞書に近く（書中でも словарь「辞書」と明記されている）、例えば動詞の一致が単数でなされるのか、それとも複数でなされるのかといったヴァリエントをいくつかあげ、それがどの程度の割合で用いられているかが記録されている。ヴァリエントについて参照する必要がある場合は一度目を通しておくとよいであろう。

- Зализняк, А.А. 1967, *Русское именное словоизменение*, Изд-во «Наука», Москва

露

ロシア語の名詞類（имя: 名詞、代名詞、形容詞、数詞）の語形変化を扱った本である。語形変化全般を取り扱っている。語形変化のパターンなどをまとめたりしているため、名詞類の形態論を取り扱うときは参照するとよいであろう。

- Зализняк, А.А. 2000, *Введение в русскую аспектологию*, Языки русской культуры, Москва

Золотова, Г.А. 1988, *Синтаксический словарь*, Наука, Москва

露

ロシア語動詞の体について取り扱っている。体の意味や意味上の対立、形態的な特徴、移動動詞の体など、ロシア語動詞の体については一通り取り扱われている。ロシア語の体について何等か言及する場合に用いるとよいであろう。

- Исаченко, А.В. 1954, *Грамматический строй русского языка в сопоставлении с словацким*,

морфология, Издательство Словацкой академии наук, Блатислава

露、☆

全2巻本。スロヴァキア語と対照しながら、ロシア語の文法について記述している。例えば、ロシア語動詞を1から10までのクラスに分類するなど、スロヴァキア語文法に沿った記述がなされているのが大きな特徴である。なお、2巻とも東京外大の図書館に所蔵があるが、1巻目については閉架に所蔵されている。

- Кошелев, А. 1962, *Грамматика современного русского языка для студентов-русистов*, Наука и искусство

露

ロシア語教師や、ロシア語を専門とする学生向けの文法書である。研究者向けではないとはいえ、音声、形態、統語について記述があり、文法を参照するうえでは十分活用できる。ただし、音声については記号がすべてキリル文字で記述されているので、その点には注意が必要である。

- Крылова, О., С. Хавроница, 1976, *Порядок слов в русском языке, Русский язык, Москва* (英語版あり; *Word Order in Russian Language*, Trans. V. Korotky, E. Muzhevlyov, V. Zotov)

露、(英)

ロシア語の語順を特に扱った本である。語順のもたらす効果について、актуальное членениеに触れながら解説している。また、文だけではなく、語の合成における語順も扱っているため、語形成について研究する場合でも用いることができる。なお、本書には英訳版もあり、ロシア語の原文、英訳版共に東京外大の図書館に所蔵されている。

- Мучник, И.П., М. В. Панов, 1964, *Развитие грамматики и лексики современного русского языка*, Наука, Москва

露

ロシア語の形態論について取り扱った論文を集めた論集である。語構成や接辞、数など、形態論について研究したいときは、この本から適当な論文を選んで読むとなんらかの参考になるであろう。

- Петрухина, Е.В. 2011, *Аспектуальные категории глагола в русском языке в сопоставлении с чешским, словацким, польским и болгарским языками*, URSS, Москва

露

ロシア語の動詞の体について、チェコ語、スロヴァキア語、ポーランド語、ブルガリア語と対照しながら論じている本である。ロシア語の体だけではなく、他のスラヴ語との対象研究をする場合においても、参照するとよいであろう。

- Пешковский, А.М. 1928, *Русский синтаксис в научном освещении*, 3-е совершенно перер. изд.

Гос. изд-во, Москва

露、☆

ロシア語の文法について記述した、古い書籍である。一般の部(общая часть)と特殊の部(специальная часть)に分かれているが、一般の部は主に形態論を、特殊の部は主に統語論を取り扱う。古い書籍であるので、文法などが現代とは異なっている可能性があることに留意しながら用いるとよいであろう。

- **Пирогова, Л.И. 1999, *Русский глагол Грамматический словарь-справочник*, Школа-Пресс, Москва**

露

ロシア語の動詞について取り扱っている本。動詞の体とその意味、ся 動詞、人称変化、時制、形動詞、副動詞の作り方、接頭辞や接尾辞による語形成など、ロシア語動詞について一通り解説をしている。加えて、巻末にはロシア語動詞の変化表や動詞の一覧が掲載されており、視覚的に情報を集めやすくなっている。

- **Прокопович, Н.Н. 1974, *Вопросы синтаксиса русского языка*, Высшая школа, Москва**

露

大学生や大学院生を対象にしたロシア語の統語論について取り扱った本。2部構成となっており、第1部では語の合成や文について、第2部では形動詞・副動詞や形容詞についての統語論を取り扱っている。文だけでなく、語形成や語構成にも触れているので、形態論を取り扱うときも参照できる。

- **Лаптева, О.А. 1976, *Русский разговорный синтаксис*, Наука, Москва**

露

ロシア語口語の文法についてまとめている本である。第1部でロシア語口語の統語論について解説し、第2部で実際の文の構造を、多くの例を交えて解説している。第2部の例文は、細かく分類されており、また量としても豊富なのでここから研究に用いるための例文を探すこともできるであろう。

- **Лекант, П.А. 1988, *Современный русский литературный язык*, Высшая школа, Москва**

露

全1巻で小さくまとまっている本。章立ては語彙・句法、音韻論、正書法、形態論、統語論となっているが、全体的には音韻論や正書法の記述が見やすく、量を割いて説明をしている印象がある。

- **Рассудова, О.П. 1968, *Употребление видов глагола в русском языке*, Издательство Московского университета, Москва**

露

ロシア語の体について、その用法を過去時制や未来時制、不定法、命令法について、そして、体のペアを作らない動詞について解説している本。学術的内容というよりは、ロシア語教師が参照することを想定して書かれていると思われる。

- **Розенталь, Д.Э. 1970, *Вопросы русского правописания: практическое руководство*. Изд. 3-е, испр. доп, Изд-во Московского университета, Москва**

露

ロシア語の正書法について解説している小さな本である。小さいながらも、分量としては充分であり、また、接頭辞や語の合成の規則についても解説しており、形態論の研究の際にも参照すべき内容である。加えて、記号の使い方も解説しており、ロシア語の作文や教科書を作る際にもぜひ参照すべきものとなっている。

- **Розенталь, Д.Э. 1998, *Практическая стилистика русского языка*, АСТ-ЛТД, Москва**

露

ロシア語文体論全般について取り扱った本である。文体論に絡めて、名詞類の格や数といった語形の持つ意味や、動詞の屈折の持つ意味などの文法との絡みや、統語論と文体論の絡みについても取り扱っており、幅広い研究領域で用いることができる一冊となっている。

- **Розенталь, Д.Э., И. Б. Голуб, М. А. Теленкова, 1994, *Современный русский язык, Международные отношения*, Москва**

露

音韻、形態、統語について解説している、ロシア語の参照文法として用いることができる本である。特徴として、正しい発音(орфоэпия)について一章設けていることが挙げられる。他の参照文法と共に用いるとよいであろう。

- **Сазонова, И.К. 1989, *Русский глагол и его причастные формы, толково-грамматический словарь*, Русский язык, Москва**

露

ロシア語の動詞を専門に扱った辞書である。人称変化や過去形、完了体/不完了体の情報だけでなく、どのような補語(目的語)をとるか、体のペアになる動詞や、可能な形動詞・副動詞の形まで記載されている。動詞について詳細に調べたいときはこの辞書を用いるとよいであろう。

- **Шапиро, А.Б. 1966, *Современный русский язык Пунктуация, Провещение*, Москва**

露

ロシア語の句読点などの記号の付け方や意味について解説している本。巻末に練習問題がついている。研究に用いるような本というよりは、教科書や学習書、練習書といった趣が強く、論

文執筆の参照とするには限定的であろう。

- Шанский, Н.М. 1981, *Современный русский язык*, Просвещение, Москва

露

ロシア語の文法を一通り取り扱った文法書。図や表などを用いて視覚的に語形の差を表していることが大きな特徴である。また、特に形態論では品詞ごとに節立てがなされており、ある特定の品詞の特定の語系について調べたいときに参照しやすいつくりとなっている。

- Шведова Н.Ю. 1970, *Грамматика современного русского литературного языка*, Наука, Москва

露、☆

通称「70年文法」と呼ばれる文法書。はじめに語形成を取り扱い、続いて形態論、アクセント、音交代、統語を取り扱う。語形成については、生産的に用いられる形態素を一覧にしており、また、統語については、様々な文型を見出し語の形で記しているのので、必要な情報を参照しやすいつくりとなっている。

- Шведова Н.Ю. 1980, *Русская грамматика*, Наука, Москва

露、☆

通称「80年文法」と呼ばれる文法書。全2巻で、1巻目で音声、音韻、アクセント、イントネーション、語形成、形態論について、2巻目で統語論を取り扱う。特に、音韻やアクセント、イントネーションについて詳細に解説があることは特筆すべきである。加えて、1巻の巻末には語形成で用いられる形態素の一覧があり、使いやすい。

- Шевякова, В.Е. 1976, *Актуальное членение предложения: пособие по адекватности перевода на материале английского языка*, Наука, Москва

露

現代ロシア語の語や句の生成について論じた本である。第1部で語の生成について、第2部で句の生成や変形文法について取り扱われている。図や記号を多用した、かなり抽象度の高い説明がなされている。語形成について生成文法的視点で取り扱いたいなら、一読しておくとうまいであろう。

- Шведова, Н.Ю. 2005, *Русский язык Избранные работы*, Языки славянской культуры, Москва

露、☆

全1巻本。ロシア語の統語論について焦点を当てた本である。統語論を中心に、時制などの形態的な情報のほか、語や意味、代名詞、動詞 *быть* の統語上の役割など、統語論だけでなく、その周辺についても幅広く取り扱っている。

- Barnetová, V. 1979, *Русская грамматика*, Academia Praha, Praha

露、☆

チェコで出版された、ロシア語で書かれた参照文法書。上下2巻本で、1巻目で音韻論と形態論、2巻目で統語論を取り扱っている。音韻論ではロシア語の音韻体系について音声波形を交えて、形態論では品詞ごとに詳細な用法を示しており、論文執筆の際には一度目を通しておくべき内容となっている。

- **Borras, F.M., R.F. Christian, 1959, *Russian Syntax*, Oxford University Press, Oxford**

英

50年代にロシア語の文法について書かれた本。統語論について詳細な議論はなされていないが、例えば名詞なら格や指小辞、動詞なら人称、時制といった品詞ごとの特性や語形成などについてまとめられている。基本的には形態について参照するのに用いるのが良い。

- **Timberlake, A. 2004, *A Reference Grammar of Russian*, Cambridge University Press, Cambridge**

英、☆

いわゆる参照文法と呼ばれるものの中で、恐らく最もよく用いられている本である。英語で書かれた文法書としては、ひとまずこれを参照すべき文献。音節構造や音素などの音韻から項構造、時制、体、情報構造といった形態・統語論に至るまで幅広く取り扱っている、ロシア語学の論文執筆にも使える一冊。

- **Townsend, C.E. 1975, *Russian Word-Formation*, Slavica Publishers, Inc. Cambridge**

英

ロシア語の語形成について書かれた本。ロシア語正書法に始まり接辞、形態素をどう組み合わせるかと語を作るかといった語形成の一般的規則から、名詞、動詞などといった品詞による語形成の方法まで、語校正全般について包括的に論じた本であり、形態論について研究するなら一度読んでおくべきであろう。

- **Wade, T. 2000, *A Comprehensive Russian Grammar*, Blackwell Publishers, Oxford**

英、☆

Timberlake (2004)に並び、しばしば参照される文法書である。比べると、平易に書かれていて、幾分か学習書寄りの文法書。主要な文法事項は一通り取り扱っているため、基礎的な事項の確認の際に用いるとよい。

- **ヴェラン、シャルル・ジャック、1970、『ロシア文法』、矢野道生訳、白水社、東京**

日

白水社から出ている「文庫 クセジュ」の一冊。文庫サイズながら、学術的な内容となっており、教科書ではなく参照文法的である。音韻から文法、果ては抑揚(ИК)なども取り扱っており、ロシア語については一通り取り扱っているといえる。ただし、用語に現在のスタンダードと少

し異なる点があることに注意。

・宇多文雄、2016、『ロシア語文法便覧』、東洋書店新社、東京

日、☆

ロシア語の文法について音韻、形態、統語と一通り扱った本である。学習者が学習のために用いるものではなく、ロシア語について研究するとき用いるような内容である。日本語で書かれた参照文法として、他に匹田 (2016) などがあるが、こちらの方が文章が固く、より網羅的に書かれている。

・神山孝夫、2012、『ロシア語音声概説』、研究社、東京

日、☆

ロシア語の音声について取り扱った、日本語で書かれた書籍である。ロシア語のそれぞれの文字の発音について詳細に記しただけでなく、名詞や動詞の変化形のアクセント移動のパターンや、ロシア語の抑揚の付け方(ИК)についても取り扱っている。ロシア語音声について触れるときは一度参照すべきであろう。

・ギャルド、ポール、2017、『ロシア語文法 音韻論と形態論』、柳沢民雄訳、ひつじ書房、東京

日

原著はフランス語で書かれた、ロシア語文法の中でも、特に音韻論と形態論について詳述した本である。学習者が要求するような内容ではなく、音声や形態論について研究するときに、参照するような、高度で専門性の高い事柄が記述されている。定価が 24,000 円と高価であるが、価格に見合うだけの内容はあると言える。

・佐藤純一、2001、『新 ロシア語入門』、NHK 出版、東京

日

NHK 出版から出ているロングセラーの学習書。各章に例文と練習問題があり、継続して学習するのに向いている構成となっている。加えて、巻末の変化表では、特に動詞の変化が詳細にまとめられており、初学者でもテキストを読む際の助けとなる。

・城田俊、1979、『ロシア語の音声：音声学と音韻論』

日、☆

ロシア語の音声を専門に扱った、日本語で書かれた本である。ロシア語音声について網羅的に扱っており、表や例を多用しており情報がかなり見やすい。加えて、各語尾などの形態的な要素における音の特徴なども論じており、ロシア語音声について取り扱うならこの一冊は必見である。

・城田俊、1993、『現代ロシア語文法』、東洋書店、東京

日、☆

本書でははじめに発音を取り扱い、そのあとに文法を取り扱う。取り扱う文法は、初級レベルのもので、城田・八島(2003)に続く。また、イントネーションの型(ИК)について取り扱っていることは特記に値する。なお、現在は東洋書店新社より新版が出版されている。

- ・城田俊・八島雅彦、2003、『現代ロシア語文法 中・上級編』、東洋書店、東京

日

城田(1993)の続きとなっている。本書も2部構成になっており、第1部で文法、第2部で表現法が扱われている。第1部では名詞の格や動詞の体など学習者にとって難易度が高い要素が丁寧に扱われており、第2部では表現の細かい差異を取り扱っている。学習書としてはハイレベルなものである。

- ・染谷茂、1979、『染谷茂ロシア語文法小話』、美顕プリンティング出版部、東京

著者が方々で講演、寄稿したりしたものを一冊にまとめた本である。ものによってはエッセイのようなテイストがあるが、基本的にはロシア語の文法についてまとめたものである。専門性が高い記事もあるが、気軽に読める内容のものもある。痒い所に手が届くようなものが多いので、是非一読を勧める。

- ・原求作、1996、『ロシア語の体の用法』、水声社、東京

日、☆

ロシア語動詞の体について、特に意味を中心に完了体と不完了体の使い分けについて説明した本。否定詞の有無や状況語、時制などと絡めて体の用法を詳述しており、ロシア語学習のネックである体の用法については日本語文献の中では一番詳細に解説していると思われる。

- ・原求作、1996、『ロシア語文法の要点』、水声社、東京

日、☆

ロシア語の文法について、格や品詞等に関する細かな用法について解説している本。目次が文学作品からとってきた例文であり、どのような例について解説するのかが一目でわかるようになっている。その一方で、どこにどの用例があるのかについては検索性が悪い面もある。

- ・原求作、2001、『ロシア語動詞の構造』、水声社、東京

日、☆

ロシア語の動詞を形によって分類し、その特徴などを解説した本である。ロシア語動詞の語形についてのみ注目し、動詞の変化パターンの分類や、不定形と現在形の関係について詳述している。歴史的、理論的な形についての言及が多く、また、例文がないため、初学者には全く向かず、動詞形態について詳しく知りたいときに用いるのがよい。

- ・原求作、2008、『ロシア語の運動の動詞』、水声社、東京

日、☆

ロシア語動詞の中でも、いわゆる「運動の動詞」の用法について解説したものである。「運動の動詞」で区別される「定動詞」、「不定動詞」の使い分けだけでなく、動詞 *идти/ходить* 「歩いて行く」の用法など、その他の事項についても解説がある。解説だけではなく、練習問題もついており、学習書として用いることもできる。

- ・匹田剛、2016、『これならわかる ロシア語文法』、NHK 出版、東京

日、☆

教科書というよりは、ロシア語の文法事項をまとめた参考書といった趣が強い。文法事項全体を一通り網羅しているが、特に格変化や前置詞などの名詞類についての記述が豊富である。

- ・藤沼貴、2007、『ロシア語ハンドブック』、東洋書店、東京

日

本書は全2部構成となっており、第1部は挨拶、承諾、仮定といった表現に重きを置いたまとめ方になっており、第2部はテーマ別に語彙項目をまとめている。文法についても第1部で取り扱っているが、全体的には文法書というよりは、表現集といったほうが適切かもしれない。

- ・イ・エム・プリキナ、1968、初歩ロシア語文法、正田あきら訳、ナウカ、東京

日

日本語で書かれたロシア語文法書。初歩と書かれているが初学者向けではなく、練習問題も収録されていない。内容については名詞の格変化や動詞の活用、体などの初歩的なものであるが、例えば名詞については外来語や双性名詞について取り扱うなど、細かいところまで手が届いている感がある。

- ・和久利誓一、1961、『ロシヤ語四週間』、大学書林、東京

日

大学書林から出ている「四週間」シリーズ。1960年代の本だけあって、表現が古いが、動詞回りの解説が非常によくまとまっている印象。他の「四週間」シリーズにも共通して言えることだが、練習問題が少ないので、この本一冊での学習を行うというよりは、文法事項を参照するために活用するのが良いと思われる。現在絶版なので、入手は難しい。

研究書

- ・Bailyn, J. F. 2012, *The Syntax of Russian*, Cambridge University Press, Cambridge

英

ロシア語を生成文法的に分析している本である。内容は動詞句、名詞句、節の外にも格や語順についても取り扱い、生成文法の中でどのように分析されるかを詳述している。

- **Caflich, J. 1995, *Issues in Russian linguistics*, University Press of America, Lanham**

英

ロシア語の音韻論、形態論についての諸問題とその分析を行っている本である。ただし、形態論についてはかなり音韻論に寄ったものを取り扱っているので、全体的にはロシア語音韻論について取り扱った本と言えるかもしれない。一般言語学的内容からの説明がなされているので、教科書的側面が強い。

- **Comrie, B., G. Stone, M. Polinsky, 1996, *The Russian Language in Twentieth Century*, 2nd ed. New York, Oxford**

英

20世紀におけるロシア語の変遷を音韻、形態、統語、語彙、女性の社会的地位の変遷、社会的場面や表記法に沿って取り扱った本である音韻や統語などといった言語そのものだけでなく、社会言語学的なテーマまで取り扱っていることが大きな特徴である。

- **Forsyth, J. 1970, *A Grammar of Aspect Usage and Meaning in the Russian Verb*, Cambridge University Press, London/New York**

英

ロシア語の動詞の体について取り扱った本である。はじめに体について解説し、続いて語形と体の関係、体のペア、時制、多回的な行動について、命令などの態との関係、形動詞・副動詞と体の関係、運動の動詞と体の関係を取り扱っており、動詞の体について包括的に記述しているといえる。

- **Gribble, C.E. 1973, *Russian Root List -With a Sketch of Word Formation*, Slavica Publishers Inc. Cambridge**

英

ロシア語の語を構成する語根をまとめた本。語根から語を作る規則を記してある以外は、基本的には語根の一覧表なので、通読して学習するものではなく、また研究に用いられるような学術的な内容は書いていない。ある語の構成を調べる際に用いるのが最初に思い浮かぶ使い方であろう。

- **Hart, D.K. 1996, *Topics in the Structure of Russian: An Introduction to Russian Linguistics*, Slavica Publishers, Inc. Columbus**

英

ロシア語の音韻論、形態論について取り扱った本である。前半部分で音韻論を、後半部分で形態論を取り扱っている。Caflich (1995)と同様に教科書的側面が強いが、頻出する形態素の使い方について詳述している点で差別化がなされている。加えて、練習問題が掲示されており、理

解の度合いを確認しやすくなっている。

- King, T. H. 1995, *Configuring Topic and Focus in Russian*, CSLI Publications, Stanford

英

ロシア語の語順を、生成文法の手法で研究している本。ロシア語は、語順が比較的自由的な言語であるが、語順そのものが無意味というわけではなく、その発話の「話題」(Topic)が関係しているといわれている。この本では、生成文法的に語順についての分析を行っている。

- Pesetsky, D. 2013, *Russian Case Morphology and the Syntactic Categories*, MIT Press, Cambridge

英

ロシア語の格の用法について、生成文法的に分析している本である。格付与がどのように行われているかを理論的に分析しており、ロシア語学に限らず一般言語学上でも有用であるといえよう。

- Pereltsvaig, A. 2007, *Copular Sentences in Russian A Theory of Intra-Clausal Relations*, Springer, Dordrecht

英

ロシア語のコピュラ文、つまり名詞述語文の構造を、生成文法的に取り扱った研究書である。本書では、Чехов был писатель/ писателем。「チューホフは作家であった。」といった、述語部分が主格でも造格でも可能な例について、句構造、テーマ、格の3点から議論がなされている。

- 金田一真澄、1994、『ロシア語時制論 —歴史的現在とその周辺—』、三省堂、東京

日

ロシア語における歴史的現在について、日本語で書かれた本である。歴史的現在とは、過去に起こった出来事を現在形で表す表現技法であり、ロシア語の場合はここに体の要素が加わる。文体としての歴史的現在にとどまらず、ロシア語の体について触れる場合も、本書を一度読んでおくとよいであろう。

スラヴ語およびスラヴ語史

- 木村彰一、1985、『古代教会スラヴ語入門』、白水社、東京

日、☆

古代教会スラヴ語の文法を一通りまとめた本。ページ数に対して情報量が多く、動詞や名詞の変化表が数多く載っているため、基本的には通読するものではなく、テキストを読む際に参照するのに使うのが望ましい。この本自体にもテキストと解説が付属しているためこの本単体での学習も可能である。

- 桑野隆・長與進、2010、『ロシア・中欧・バルカン世界の言葉と文化』、成文堂、東京

目

スラヴ語をはじめとする、東欧の言語や文化、社会についてまとめられた本である。スラヴ語学だけでなく、ハンガリーやルーマニアなどの東欧諸国の言葉についても記述されている。また、言語だけではなく社会や文化等についてもふれられている。社会言語学の概略について知りたいときに目を通すとよいであろう。

- ・佐々木秀夫、1982、『ロシヤ古文典』、ナウカ、東京

目

古代ロシア語について日本語でまとめられた本。木村(1985)と同様に、変化表と読解用のテキストが付属しており、通読するものではなく、必要な時に参照すべきものである。ただし、巻末に辞書がついていないので、読解の時に語形変化を参照するような使い方が望ましいであろう。

- ・佐藤純一、2021、『ロシア語史入門』、大学書林、東京

目

ロシア語の歴史的な変化の流れを概説した本。特に古代ルーシ時代のロシア語については文法まで概説している。また、巻末には実際のテキストが日本語訳と共に掲載されており、現代語との比較等にも用いることができる。

- ・服部文昭、2020、『古代スラヴ語の世界史』、白水社、東京

目

書き言葉としてのスラヴ語の歴史を、世界史の流れに沿って解説する本。言語そのものの歴史というよりは、スラヴ系民族の歴史を取り扱っている趣が強い。タイトルの通り古代(9世紀から11世紀ごろ)を中心に取り扱っているが、19世紀から現代のスラヴ語についても取り扱っている。

- ・原求作、2014、『キリル文字の誕生-スラヴ文化の礎を築いた人たち-』、上智大学出版、東京

目

語学についてではなく、スラヴ語などの表記に使われるキリル文字の歴史について書かれた本である。古い時代のスラヴ語についてだけでなく、キリル文字の成立から現在にかけての歴史を取り扱っている。

- ・原求作、2021、『古代教会スラヴ語入門』、水声社、東京

目

木村(1985)と同様、古代教会スラヴ語の文法を一通りまとめた本。木村(1985)と異なるのは、例文が少なく、自主学習に向かないこと、その一方で現代ロシア語やラテン語、古典ギリシア語と対照する説明が多いことが挙げられる。

- ・三谷恵子、2011、『スラヴ語入門』、三省堂、東京

日

ロシア語だけでなく、スラヴ語全般を取り扱う本である。現代スラヴ語の概要を各論的に記述するにとどまらず、スラヴ語全体の特徴や歴史、現代社会におけるスラヴ語の在り方についても取り扱われている。

- ・三谷恵子、2016、『比較で読み解くスラヴ語の仕組み』、白水社、東京

日

スラヴ語全般について解説する本である。全体的には三谷(2011)に比べて平易で、より入門書に近い位置づけで書かれたものと思われる。内容は各スラヴ語の文法事項に特化しており、タイトル通りスラヴ語同士を比較してその特徴を論じている。

- ・Corbett, G., B. Comrie, 1993, *The Slavonic Languages*, Routledge, London

英

あらゆるスラヴ語について、その音韻や形態、統語などにとどまらず、方言やスラヴ系移民の言語などの社会言語学的な事柄も取り扱っている本である。また、現代語だけでなく、古代教会スラヴ語も取り扱っている。ある一つの言語についての記述だけでなく、他のスラヴ語との比較をする際にも用いることができる。

エッセイ

- ・カトー・ロンブ、1981、『わたしの外国語学習法』、米原万里訳、創樹社、東京

日

ハンガリー出身で16言語を操る通訳者による、外国語学習法について書かれたものを、同時通訳者として有名な米原万里が翻訳した本である。学術書ではないが、外国語の習得法や語学の才能などについて書かれており、一度目を通すと良いだろう。現在は、文庫版が筑摩書房から出ている。

- ・黒田龍之助、1998、『羊皮紙に眠る文字たち：スラヴ言語文化入門』、現代書館、東京

日

スラヴ語学について取り扱った、エッセイと学術書の間のような本。基本的にはキリル文字を表記に用いるスラヴ諸語、特にロシア語などの東スラヴ語について記述している。加えて、キリル文字やその以前に使われていたグラゴール文字について特に詳しく扱っている。なお、白水社から出ている「羊皮紙に眠る文字たち再入門」は本書の増補改訂版である。

- ・黒田龍之助、2000、『外国語の水曜日：学習法としての言語学入門』、現代書館、東京

日

外国語についてのエッセイであるが、外国語学習のための言語学についてもふれられている。前半部分では、筆者が大学で講師をしている中で出会った外国語についてのエッセイが書かれており、後半では、外国語学習のための言語学がエッセイ調で書かれている。言語学に触れる前に読むと、より一層言語学への興味を持つことができるかもしれない。

・黒田龍之助、2010、『ロシア語の余白』、現代書館、東京

目

ロシア語にまつわるエッセイを集めた本である。ロシア語がたくさん出てくるが、教科書や研究書ではなく、例えば空いた時間に読むべきものである。ロシア語学習にさいして直面する様々な事柄を面白く描いている。なお、2021年に増補版である「ロシア語の余白の余白」が出版されている。共に外大図書館蔵。

・黒田龍之助、2011、『言葉は変わる——初めての比較言語学』、精興社、東京

目

言語の変化や比較言語学について書かれた本である。エッセイと学術書の中間的立ち位置であるが、やや学術書に寄っているような印象。大学院生が研究に用いるのではなく、学部生や言語学に興味のある人が読むと、言語とは何かという問いを考えるよい契機になるのではないかと考えられる。

・黒田龍之助、2015、『チェコ語の隙間：東欧のいろんな言葉の話』、現代書館、東京

目

本書は、東ヨーロッパのスラヴ語、具体的にはポーランド語、チェコ語、旧ユーゴスラビア諸国の言語やブルガリア語をエッセイの形式で紹介している。学術目的ではなく、これらの言葉について簡単に読んでみたいときに読むものである。なお、「チェコ語の隙間の隙間」は本書の増補改訂版であり、ウクライナ語についての章が加えられている。

・黒田龍之助、2016、『外国語を学ぶための言語学の考え方』、中央公論新社、東京

目

外国語を勉強するヒントになりそうなことを、言語学の視点から書いている新書である。文庫サイズであり、分量も程よいので、言語学の講義を受けるなどして本格的に言語学入門する前に読むと、そのあとの理解が少ししやすくなると考えられる。

・千野栄一、1986、『外国語上達法』、岩波書店、東京

目

外国語学習の方法論について、新書にまとめたものである。必要な心構えや単語、文法について、あるいは教科書や辞書、教師の選び方などにも触れている。堅苦しい語学書かと思われるかもしれないが、実際は著者の経験談を交えた、エッセイ風にもなっており、十分に読み

応えのあるものである。現在は電子書籍版も Kindle で出ている。

- ・千野栄一、1994、『言語学への開かれた扉』、三省堂、東京

目

著者が他の媒体で書いてきた言語学についての記事をまとめて、1冊の本にしたもの。スラヴ語学に限らない、言語学の用語や、著名な言語学者の研究などをまとめたもので、学術書ではないものの、言語学への入門の際に読むと大きな学びがあるであろう。

露和辞典

- ・佐藤純一・新田実・小川政邦・藤家壮一・灰谷慶三・箕輪武雄、1969、『ロシア基本語辞典』、白水社、東京

目

見出し語を詰めて書くことがなく、辞書として見やすいつくりになっている。井桁 (2004) などと同様に、初学者が用いるのにちょうどいい。

- ・ザルービン, S.・A.ロジェーツキン、1988、『現代露和辞典』、ナウカ、東京

目

用例が豊富に記載されており、ロシア語を専攻する場合でも十分活用ができると思われる。ただし、現在は絶版となっており、中古以外での入手は困難。

- ・東郷正延・染谷茂・磯谷孝・石山正三、1988、『研究社露和辞典』、研究社、東京

目、☆

あらゆる分野において使うことができるであろう辞書。収録語数や見出しの情報量なども十分で、ロシア語を専攻する学生なら必ず持っておくべき1冊である。CD版あり

- ・和久利誓一・飯田規和・新田実、1992、『岩波ロシア語辞典』、岩波書店、東京

目、☆

東郷他(1988)に並ぶ辞書。こちらのほうが例文が豊富な印象である。ロシア語専攻なら、東郷他(1988)またはこの辞書、あるいは両方を持っておくべきであろう。

- ・米重文樹、1994、『パスポート初級露和辞典』、白水社、東京

目

イラストや、カタカナでの単語の読み方が示してあるなど、タイトルに「初級」とある通りロシア語をはじめて日の浅い学習者用に特化した辞書。基礎的な語を除き語形変化が示されていないなど、中級者以上が用いるには不便であることは否めない。

- ・木村彰一・栗原成郎・佐藤純一・中村喜和・松井茂雄・森安達也・桑野隆、1995、『改訂新版 博

友社ロシア語辞典』、博友社、東京

目

主要語以外の用例が少なく、見出しに載っている語形変化もやや足りない箇所があるように思えるが、字は大きく、また収録語数は多い。加えて、不規則な変化をする語については不規則な形で見出し語に記載があるなど、初心者が使いやすいような工夫もなされている。

- ・安藤厚・大西郁夫・栗原成郎・灰谷慶三・藤家壮一・松井俊和・望月恒子・タチアーナ・ウラーソワ、1997、『ロシア語ミニ辞典』、白水社、東京

目

露和辞典と和露辞典が一冊になっている。コンパクトにまとまっている中で露和と和露があるので場所はとらないが、その分収録語数は少なく、例文や語形変化の記述も少ない。

- ・井桁貞義、2004、『コンサイス露和辞典』、三省堂、東京

目

収録語数は東郷他 (1988)や和久利他 (1992)よりも少なく、また語形変化が見出しに書かれていない語もあるが、ロシア語の辞書としては小さく、安価である。一冊目に手に取るものとしてはよいかもしれない。なお、電子辞書に収録されているのはこの辞書である。

- ・中澤英彦・嵐田浩吉・加藤敏・北村充・長谷川章、2015、『プログレッシブロシア語辞典』、小学館、東京

目

重要な語については、カタカナでの読み方が示してある。収録語数や見出しの情報量などが少ないが、その分小さくまとまっている。井桁 (2004)と同様、一冊目に手に取るものとしてはちょうどよいと思われる。スマホ版あり。

和露辞典

- ・井桁貞義、2005、『コンサイス和露辞典』、三省堂、東京

目

小さな露和辞典であり、用例などの記載は少ない。小さく持ち運びも容易なので、初心者が用いるにはちょうど良いと思われる。なお、電子辞書に収録される和露辞典はこれである。

- ・藤沼貴、2011、『研究社和露辞典』、研究社、東京

目

用例や収録語数は十分に多く、また、1見出し当たりの情報も多く、実用的である。ロシア語を専攻する場合は持つておくべき辞書である。

露露辞典

- **Даль, В. 1955, Толковый словарь живого великорусского языка, Государственное издательство иностранных и национальных словарей, Москва**
全4巻本。1880年から1882年に出版されたもののリプリント版であり、綴字がロシア革命以前のものになっている。現代の辞書とほぼ同じ形式となっており、帝政時代の古い文献を読む際には非常に使いやすいであろう。
- **Ожегов С.И. и Н.Ю. Шведова, 1997, Толковый словарь русского языка, Азбуковник, Москва**
ロシア語版「広辞苑」とも言えるような、定番の辞書。Кузнецов (1998)と同様、収録語数が多く、また、辞書としては大きい。使いやすいが、用例が Кузнецов (1998)と比べるとやや少ないように感じられる。オンライン版も多く、例えば以下に示す Udarenieru.ru などでも用いられている。
- **Кузнецов С.А. 1998, Большой толковый словарь русского языка, Норинг, Санкт Петербург**
収録語数が多く、用例も豊富にある。辞書としては大きく、場所をとるのが玉に瑕だが、その分情報量が多く、使いやすいと言える。
- **Ефремова, Т.Ф. 2000, Новый словарь русского языка, том I, Русский язык, Москва**
2巻本であり、1巻目にはАからОが、2巻目にはПからЯが記載されている。収録語数は多いが、各語の記述は簡素であり、必要最低限の情報のみが記載されている。
- **Дмитриев Д.В. 2003, Толковый словарь русского языка, Издательство астрель, Москва**
記号の意味が各ページの一番下に記載されており、語形変化が見出しのすぐ下にあり、また、動詞の体のペアが同じ見出し語の中に大きく記されているなど、非常に読みやすくデザインされている。

特殊辞書

- **Виноградов, В.В. 1956, Словарь языка Пушкина Государственное издательство иностранных и национальных словарей**

露、☆

全4巻。А.С.プーシキンの作品に出てきた単語のみを収録した辞書である。単語ごとに語義があるのはもちろん、プーシキンのどの作品にどのような語形で、どのような用例で出てきたかが書かれている、一風変わった辞書である。当然ながら単語ごとの説明や用例が豊富であり、辞書として実用的なだけでなく、ただ読んでも面白いものとなっている。

- **Зализняк, А.А. 2008, Грамматический словарь русского языка: словоизменение: около 110000 слов, Издательство «Русский язык»**

露、☆

初版は *Грамматический словарь русского языка: Словоизменение: около 100000 слов* というタイトルで 1977 年に出版された。ロシア語の辞書であるが、いわゆる「逆引き」の辞書であり、単語末の文字から検索するシステムとなっている。また、単語の意味は載っておらず、その単語がどのような語形変化をするのかのみが載っている。巻頭において、どの品詞で、硬軟どちらのパターンで、アクセント移動はどうなっているかなどの語形変化が網羅的に示されており、ただの辞書だと思って引こうとすると扱えない代物となっている。逆に、使い方がわかれば、語形変化のパラダイムはこの辞書で参照できるようになる。外大図書館には、1977 年版、2003 年版、2008 年版が所蔵。

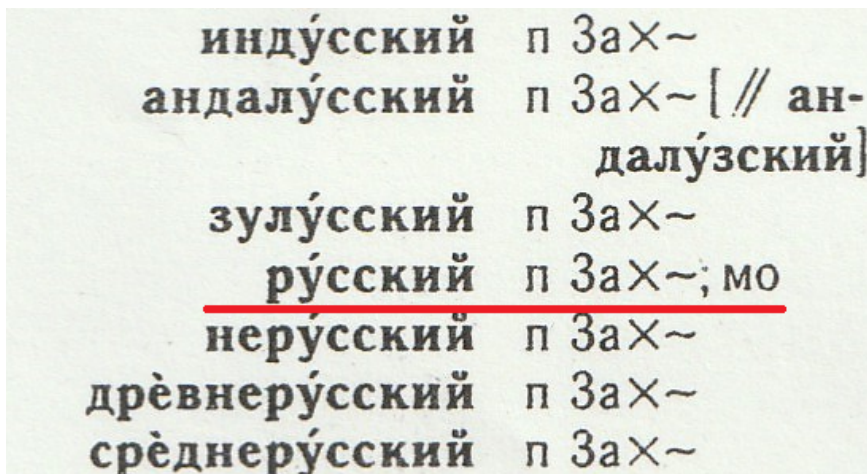


図 1 例えば、русский という単語を調べると 284 ページにこのような記号が出てくる。この記号の意味は辞書の 20 ページから書かれている。それによると、п は形容詞、мо は男性活動体名詞である。× は形容詞の短語尾形があまり用いられないことを、~ は形容詞の比較級が存在しないことを示している。なお、За は屈折パターンであり、それは 56 ページに次のように示される。

Образцы склонения

Первая (или единственная) буква индекса		а (или а')						б				
		1	2	3	4		5	6	1	3	4	
Цифра индекса					слова на -ий	слова на -ийся						
Ед. роды	муж. и сред.	И.	нов́ый	си́нний	ре́дкий	све́жий	вво́ющийся	ку́ций	дли́нноте́ний	живо́й	сухо́й	большо́й
		муж. сред.	ново́е	си́нее	ре́дкое	све́жее	вво́ющееся	ку́щее	дли́нноте́нее	живо́е	сухо́е	большо́е
	В. муж. неод. муж. одуш. сред.	Р.	ново́го	си́него	ре́дкого	све́жего	вво́ющегося	ку́щего	дли́нноте́него	живо́го	сухо́го	большо́го
		Д.	ново́му	си́нему	ре́дкому	све́жему	вво́ющемся	ку́щему	дли́нноте́нему	живо́му	сухо́му	большо́му
		И.	ново́й	си́нний	ре́дкий	све́жий	вво́ющийся	ку́ций	дли́нноте́ний	живо́й	сухо́й	большо́й
		В.	ново́го	си́него	ре́дкого	све́жего	вво́ющегося	ку́щего	дли́нноте́него	живо́го	сухо́го	большо́го
		Т.	ново́ым	си́ним	ре́дким	све́жим	вво́ющимся	ку́чьм	дли́нноте́ним	живо́ым	сухо́ым	большо́ым
		П.	о́ новом	о́ синем	о́ редком	о́ све́жем	о́ вво́щемся	о́ ку́щем	о́ дли́нноте́нем	о́ живо́м	о́ сухо́м	о́ большо́м
		И.	ново́я	си́няя	ре́дкая	све́жая	вво́ющаяся	ку́чая	дли́нноте́няя	живо́я	сухо́я	большо́я
		Р., Д., П.	ново́й	си́ней	ре́дкой	све́жей	вво́щейся	ку́чей	дли́нноте́ней	живо́й	сухо́й	большо́й
В.	ново́ую	си́нюю	ре́дкую	све́жую	вво́щуюся	ку́чую	дли́нноте́нюю	живо́ую	сухо́ую	большо́ую		
Т.	ново́й	си́ней	ре́дкой	све́жей	вво́щейся	ку́чей	дли́нноте́ней	живо́й	сухо́й	большо́й		
Мн. (всех родов)	И.	ново́ые	си́ние	ре́дкие	све́жие	вво́ющиеся	ку́щие	дли́нноте́ние	живо́ые	сухо́ие	большо́ие	
	Р., П.	ново́ых	си́них	ре́дких	све́жих	вво́ющихся	ку́чьх	дли́нноте́них	живо́ых	сухо́их	большо́их	
	Д.	ново́ым	си́ним	ре́дким	све́жим	вво́щимся	ку́чьм	дли́нноте́ними	живо́ыми	сухо́ими	большо́ими	
	В.	ново́ые	си́ние	ре́дкие	све́жие	вво́ющиеся	ку́щие	дли́нноте́ние	живо́ые	сухо́ие	большо́ие	
	неод. одуш.	ново́ых	си́них	ре́дких	све́жих	вво́щихся	ку́чьх	дли́нноте́них	живо́ых	сухо́их	большо́их	
	Т.	ново́ыми	си́ними	ре́дкими	све́жими	вво́щимися	ку́чьми	дли́нноте́ними	живо́ыми	сухо́ими	большо́ими	

図 2 русский には 3a と書かれているので、この表の a (или a') を見る。その中の 3 にあるのと

同じ変化をすることが分かる。

ウェブサイト

• Викисловарь (<https://ru.wiktionary.org>)

Wikipedia などと同じ形式で作られているオンライン辞書。意味や用例の記述については不足していることがあるが類義語・対義語・上位語・下位語の確認や、語形変化については簡単に確認することができ、便利である。加えて、英語版である Wiktionary では、語源について解説している語も多い。なお、語形変化は Зализняк (1977) に拠っている。

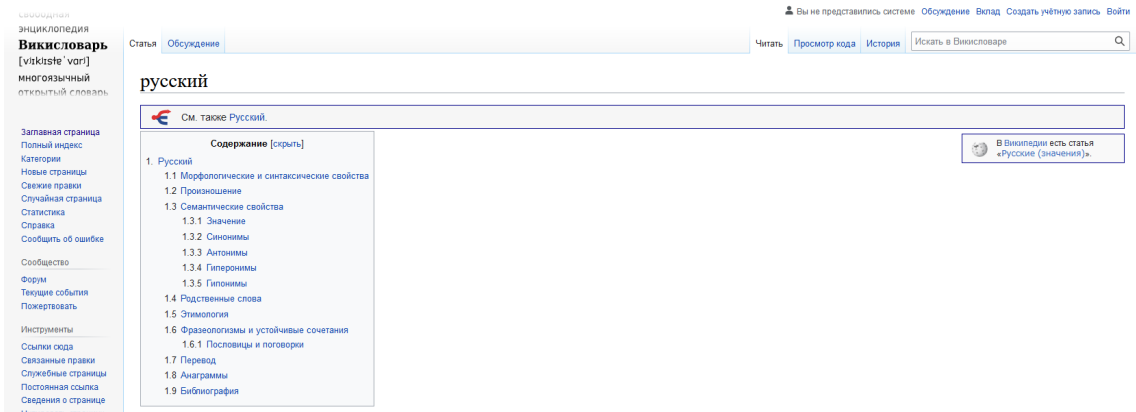


図3 ページの一番上。右上の **Искать в Викисловаре** に単語を入れると検索することができる。

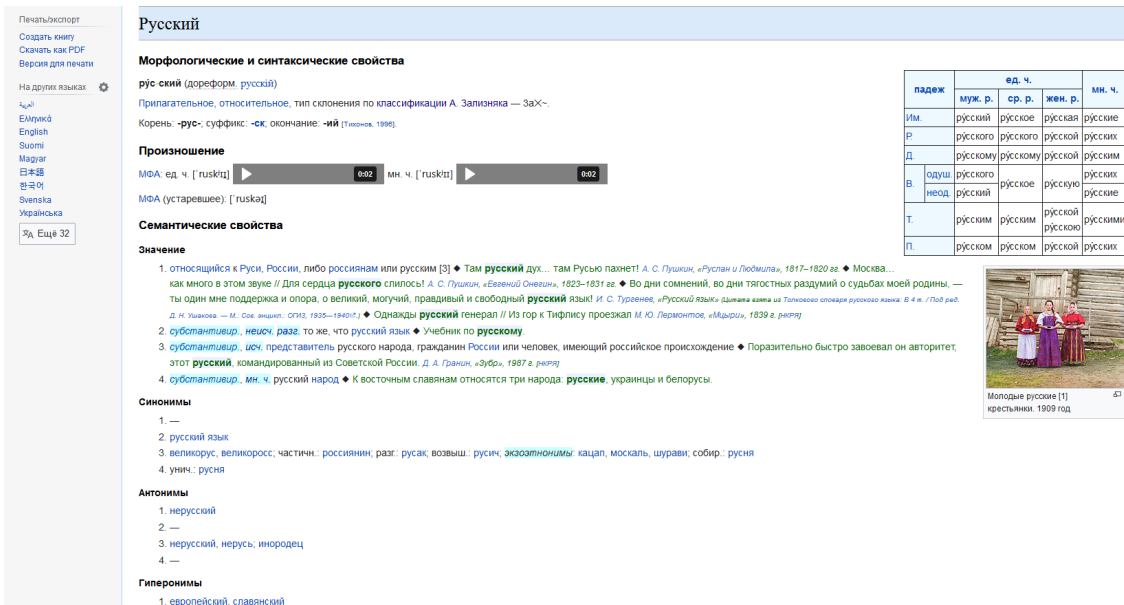


図4 図1の下部。どの言語の単語なのか、発音、語形変化、語義、例文、類義語、対義語、上位語、下位語が示されている。また、左部 **На других языках** には他言語版のページリンクが書かれている。

• Udarenieru.ru (<https://udarenieru.ru/index.php>)

Викисловарьと同様、オンライン辞書であるが、アクセントのある母音に色が付けられ、アクセントの位置の確認が容易である。また、語形変化や形態素の分析、意味、類義語、必須項の格や前置詞、Зализняк(1977)の分類も検索でき、オンラインで用いることができる辞書としては非常に充実していると言える。

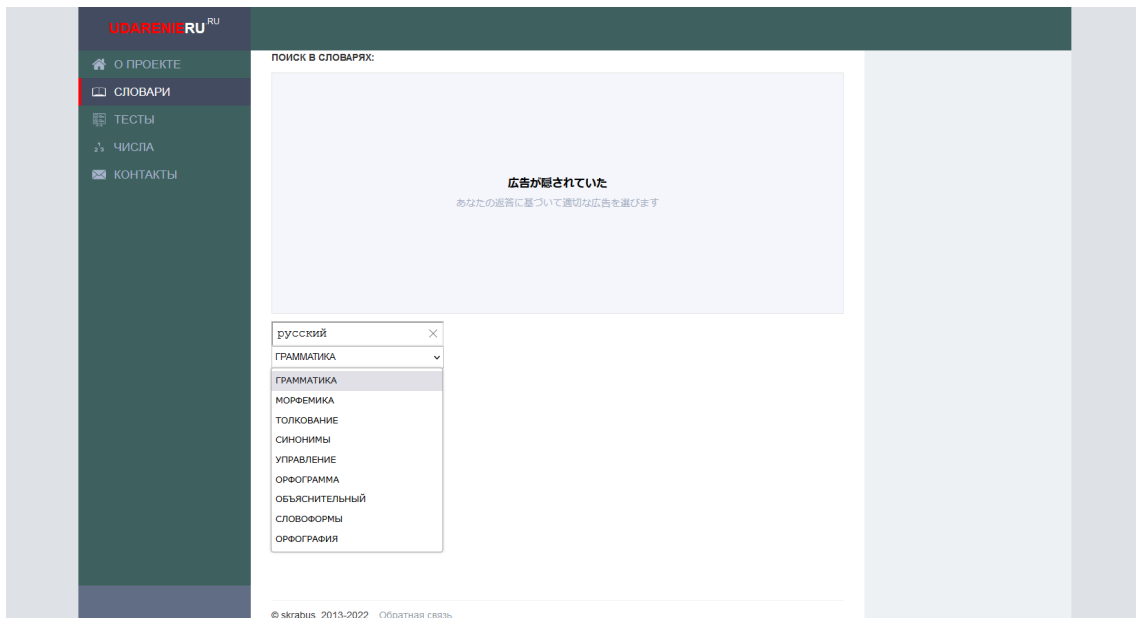


図5 左側の СЛОВАРИ を選んで広告の下のテキストボックスに調べたい単語を入力し、欲しい情報をその下のタブから選ぶ。

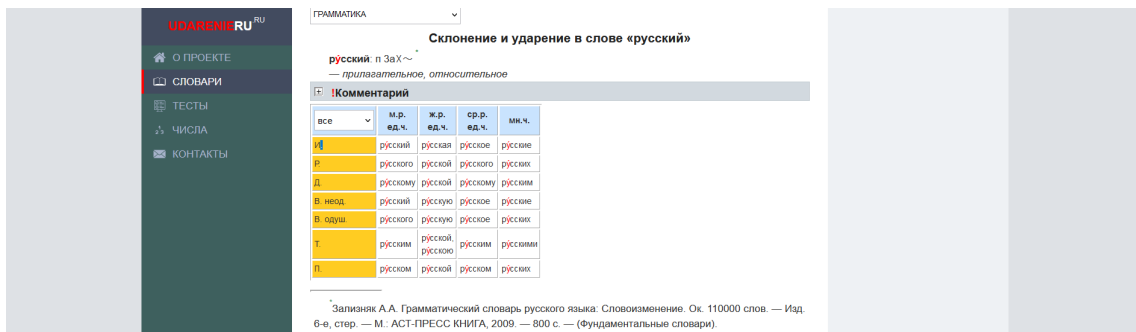


図6 例えば ГРАММАТИКА を選択するとこのように変化表が現れる。この時、表の左上のタブを選択することで見たい変化パターンだけ抽出することができる。

• **Национальный корпус русского языка (НКРЯ; <https://ruscorpora.ru/>)**

オンラインで見られるロシア語のコーパス。語順だけではなく、品詞や格などの文法情報を入力して検索することもでき、また、年代順に並べ替えるなど、欲しいデータをまとめてくれる便利な機能も付いている。使い方を覚えれば研究活動にいくらかでも使うことができる。ただし、文法情報は正確であるとは限らないので、その点は注意する必要がある。



図7 サイトのトップ画面。中央のテキストボックスに語や句を入力すると、完全一致の例文を検索することができる。

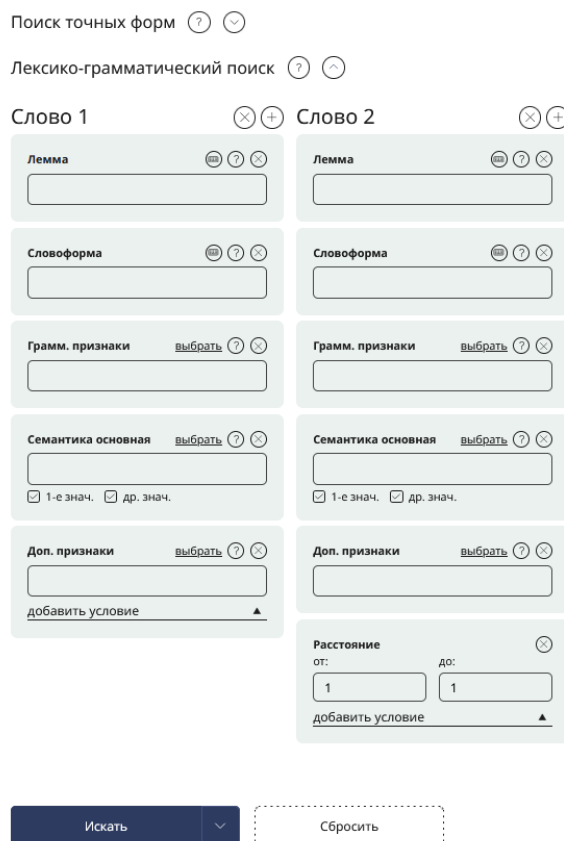


図8 Основной をクリックすると見られる画面。単語やテキスト中に出てくる語形、文法情報、さらには次の単語との距離（何語離れているか）といった情報で検索結果を絞り込むことができる。